

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第3回高田区地域協議会分科会（第1分科会）

2 議題

（1）協議（公開・非公開の別）

①高田区の活性化について（公開）

3 開催日時

令和3年11月1日（月）午後6時30分から午後7時40分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：浦壁澄子、小川善司、小嶋清介、高野恒男（副会長）、富田晃、
本城文夫（会長）、松倉康雄、村田秀夫（欠席：宮崎陽）
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、五十嵐主任

8 発言の内容（主な発言の要旨）

—次第3協議（1）高田区の活性化について—

【富田座長】

第3回目の分科会を始める。

前回の全体会で出た意見をもとに、今後どうするか話をしたい。

これまで月1回、皆さんから集まっていたいただいた経過をまとめたので説明する。

<配布資料に基づき説明>

先日の市長選挙の結果、当選された中川新市長の発言からすると地域活動支援事業は実施されないことになるかもしれない。そうすると、前回話し合った地域活動

支援事業のPRではまずいと思うし、地域活動支援事業の件では狭いし、いろいろ問題もあるのでこの件はやらないことにしたい。

それで今日、座長、副座長として提案するのは、若者の活性化、今後、大事なのは若者による活性化ではないかと思う。若者といっても大勢いるので、これについて皆さんから意見を聞きたい。

若者といえば、村田委員よりボルダリングとか、そういうことを提案されている。皆さんの意見の中では、若者という声が結構多かった。それを一つのキーワードにして進めたらどうかと思う。

・これまでの経過について、質問等のある委員の発言を求めるがなし。

浦壁委員からの指摘で、あまりテーマを広くしてはいけないということは理解している。やはり1年間しかない。そういうことを念頭に入れて進めたい。

それから皆さんの方で、こういうことを話をしたが、それはどうなっているかとか、何かあればお聞きする。

これまでの皆さんの意見は、事務局の方で会議録をまとめている。あと私の方で個別に相談したことは、会議録に載っていない。過去の分科会開催の要旨と個別に協議した議事メモは、事務局に提出している。言われていることが違うというのであれば指摘してもらいたい。

この間、私の方では資料を集めている。

空き家問題が出たので、事務局の小池係長から清里区の空き家問題から発展した「安心ノート」の取組について資料を収集した。

それから小川副座長から話があった「くらしのシルエット展」について、高野副会長も行かれたと思うが、私も見に行った。これは若手が空き家を活用した取組である。

それから上越のNPOの資料も、NPOのサポートセンター事務局長の近藤さんとお会いして、いろいろ意見交換とかヒアリングも行った。

そういうことで、3か月間ぐらいの活動はやってきているが、皆さんの方で、この高田の活性化ということで、9月6日以降にこういうことをやったということがあれば聞かせてほしい。やはり現場を知ることが非常に大事だと思う。現場が何に困っているか、まず地域協議会のメンバーもそれを知ることが大事だと思う。

【高野副会長】

若い人達というが、いろいろな人がいる。どこまで、どうやったらいいか、例えば、まちづくりをやっている人、子育てとか、介護とかもある。どういう若い人にするのか範囲が広く、どこかに絞ったらどうかと考えている。

【富田座長】

そこは人脈ではないか。普段から皆さんがお付き合いしている若者グループとの意見交換がその一つになると思う。

第2回の分科会の時に、「事例から学ぶ『若者の地域参画 成功の決め手』』という資料も皆さんに配布している。また読んでもらいたい。

皆さんがいろいろとお付き合いしている若者グループがあると思うので、そのグループとまずは意見交換していろいろな話を聞く。これがポイントだ。若者が事業とか何か新しいことをやりたいと思った時、それを阻害するのは何か。大きな問題となっているところを突っ込んでいければいいと思っている。そしてさらにその若者が若者同士で輪を広げていくことを期待したい。

高野副会長が言われるように、どこまで広げていくかは結構難しい。その辺はいろいろ考え、話し合いながら一緒に歩きながらやっていければと思う。

【高野副会長】

実際に見える形というか、実際に動いている人達を見て、そういう人達から話を聞いてはどうか。

【富田座長】

この前、「くらしのシルエット展」に行った時にもらったパンフレットに若者の顔が載っていた。それでその若者の女性と雑談している時に、そんな意見交換をしたいと言っていたことを覚えている。

あと、小川委員の方から「キナイヤ白書」というものがあり、この中に若者の集団が載っている。空き家対策、町家をどうするかということで取り組んでいる人から意見を聞くのもよい。

【高野副会長】

いろいろ活動してる人がいると思う。皆さんからその中で気がいたら報告してもらってはどうか。

【富田座長】

今、若者を中心に進めているが、あまり我々が先走ってもいけない。皆さんの方でもあれから3か月ぐらい経過して、いろいろ動かれているかわからないがどうか。

【村田委員】

昨日の今日である。若い方が市長に当選された。地域活動支援事業の見直しをする意向を持った方である。新しい状況になったわけである。高田区の活性化について、高田区地域協議会がどういう構えで、どこにどういうメッセージを発信していくか、再度組み立て直す必要があると感じた。

それで、新市長がどんな意向を持っていて、或いはコロナ禍で、そして一旦収まったこの状況の下で、地域の皆さんがどんな気持ちで、どういう要望を持っているか。そういう要望を把握するプロセスや手段もどのような形がふさわしいか、もう一度組み立て直すことが地域協議会全体として浮上しているのではないか、という印象を昨日から今日にかけて感じている。そのことについて意見をききたい。

【高野副会長】

地域協議会は、地域活動支援事業が目的ではない。自主的審議をすることが一番の目的である。その中で地域活動支援事業がなくても自主的審議という中で若い人から話を聞くこともできる。自主的審議ということで目的に向かっていけば、別に何も変える部分はないと思う。何を変えるのか。

【村田委員】

補助金の審査はやっていた。それが継続されるのか、廃止になるのか、まだ確定していない。

活性化という点がここでの議論になっているが、どういう手だてや道筋を描いたらいいのか。状況が変わってきたのかなと認識している。

【浦壁委員】

前回までの分科会の話の中で、いろいろな細かい具体的なテーマがたくさん出た。最終的には、地域活動支援事業の活性化を協議して、それを主体的に活動できるような内容にしようということで決定した。そして前回の地域協議会で今日資料にまとめていただいた結果になった。

地域活動支援事業は、私達と市との共同作業であって、主に市が主体的にやっている。市がお金を出してやっているものであり、地域協議会は補助的な役割である。それを分科会のテーマにするのはやはり問題だと思う。

村田委員も言われたが、対象を若者ではなく、その前に私達はもう1回組み立てなおして、具体的にどういうテーマでやっていくか。そのテーマについて、どういう人達はその活性化に加わってもらえるかによって、活動してもらおう対象が決まってくると思う。

若者からまちづくりに参加してもらうことは重要だが、テーマがはっきりしていないのに若者、若者というのはちょっとおかしいと思う。この前の工程表を見ると今日までは自由討議である。ここで明確なテーマを決めて、それを進めていくにはどうするかというのは今後の皆さんとの協議によると思う。

まず、このテーマが抽象的で明確になっていない。ちゃんと一つのテーマに決めて、それについていろいろな角度から協議していくべきかと思う。

【富田座長】

これは今日だけの話ではない。小川副座長、本城会長とかいろいろな人と結構議論している。

そういう中、村田委員と浦壁委員に聞くが、アクションを起こせるのか。前回の全体会議でも説明したが、この地域協議会が主体的に動く活動、これが正副会長が望んでいるものである。それで主体的に動くということはどういうことか。テーマありきではなくて、我々のテーマは、地域を活性化することであり、そのために具体的にどういうことをするかである。

ただ、テーマをどう絞るかについては、ここ3か月いろいろ考えてきた。はっきりいって難しい。では何ができるかという、例えば、若者が今事業をやっている中で妨げているものがあるのかどうかを聞いてみる。彼らが動きやすいように、何が阻害しているのか、例えばそういうことを聞いて、そのテーマで自主的審議をやって、それを行政に意見して、それをやらないと若者が伸び伸びとやれないとか。そんなことを支援する方法もあるのではないか。

今までに町内会長とか町内の人といろいろ話を聞いた時に、LEDとか4つ自主審議事項としてやっていたが、それぐらいしか出来ていない。そういう中で、ちょ

っと視点を変えたほうが良いと思う。

【高野副会長】

高田区の活性化について、テーマがはっきりしてない状況であるが、それであれば、今実際に活動してる人達、そういう人達を応援するとか、それを一つの案としてはどうか。その他にこの方がいい、こうした方がいいということであれば、また別のテーマになるのではないか。

【富田座長】

第1回目の時に、皆さんに何とか来年の7月までにある程度の結論というか、何かアウトプットを出していくと言った。それを意識しながら、まずは、意見を聞いて、それでまた何か見えてくるかと思う。

【高野副会長】

今日は、皆さん1人ずつ、どういうテーマがあるのか意見を聞いたらどうか。

【富田座長】

それでは、村田委員から順にテーマについて意見を出してもらいたい。

【村田委員】

文化、芸術、スポーツ、人の繋がりということでの活性化。そのように言い換えができるかと思っている。

市の方では方針を持っているし、新しい体制でまた新しい方針が立てられると思う。ちょっとふりかえるが、旧師団長官舎の活用については、個人的にはあそこに施設があるだけじゃなく、やはりそこを使って人々が歓談しながら、おいしいものをいただくというのはとてもいいことだと思う。それで、あそこが非常に活性化したと思う。素晴らしい庭があったり、青田川があったりして、人がそこに集まって、心のこもった料理を食しながら、時間を楽しむことに昔の建築物を活用することは、賛否があると思うが、私はとてもよかったと思う。ということは、文化、芸術、人々の繋がり、いろいろな部分で活性化の一つになったと思う。

今までオーレンピアノとかボルダリングとかいろいろな具体的な事例を出したが、いろいろなところで、いろいろな分野で取り組んでいることを市の方でよく全体を網羅しながら、より活性化の方針を立てていただく。それに対して私たちの組織が、より後押しになるような或いはきっかけをつくれるような役割が果たせれば

と思っている。私ら自身、ここで何かを行うということではないと思っている。私らの役割についてそんな意識を持っている。

【富田座長】

村田委員とは個別の話し合いをしたことはないが、その文化・芸術というテーマは、何か抽象的で広くて、何を進めていったらいいか見えてこない。

【村田委員】

ピアノの演奏、絵画展、市展とか、とても素晴らしいことをやっている。それらをトータル的に、今までの歩み、これからのビジョンというものを市民や行政と一緒に描いていくプロセスをやっていきたいと思っている。

【富田座長】

このメンバーによってか。

【村田委員】

いや、それは市の行政なので、民間団体や私らが一緒になってという意味である。

【高野副会長】

市の施設があるからそれを使って、旧師団長官舎とか、そういう施設を使ってということか。

【村田委員】

いや、ふりかえてみての感想を言ったまでである。

【高野副会長】

それではどのように進めて行くのか。タイトルが非常に大きくてとっかかりがなかなか難しい感じがする。

【村田委員】

文化、芸術、スポーツ、農業、園芸、いろいろな分野の取り組みが可能である。すでにいろいろされている部分もたくさんある。

【富田座長】

さらにそれを活性化させたいがために、どういうお手伝いができるのかということか。例えば、文化は小林古径邸などいろいろあるが、そういうところの関係者と意見交換して、何か活性化することについて、どうやったらいいとかか。

【村田委員】

そのプロセスは、まだ言えない。

【富田座長】

そこはある程度見えないと、座長、副座長としては心配である。

ある程度見えてきて、これでいいというテーマで進めないと、やったはいいが、結局これまでどおり評論家だけになってしまう。

【村田委員】

評論家ということではなく、ビジョンというか願いを共有しながらよりクリアに具体的にしていくプロセスというのは、行政、民間の団体とともに進む部分だと思う。

【高野副会長】

例えば、そういう話を市の方とするということか。

【村田委員】

市のビジョンを聞くというのはあるかもしれない。今までの経過と今後のビジョンで市はどういう方針を持っているか。今までをどうふりかえているかを聞く中で、私らも願いを伝えていく場面を持つとか。その形でお互い見えてくるものがあるかもしれない。

【富田座長】

村田委員は去年の9月からずっとそういう考えでおられた。そういう意味では方針は変わってない。ぶれていないことはいいが、1年経過して、具体的にどうしたらいいかということも考えてもらいたい。テーマを具体化すると応援しやすい。

【村田委員】

だから私らの果たす役割はどのような役割かということと、民間、行政で、そして私達がどのような形で、共通のビジョンをつくり出していくかという道筋の問題である。

私自身もピアノの練習をしながらオーレンプラザに参加したり、ボルダリングも最近はやっていないが、自分自身もやりながら、ちょっと夢を描いている。

【松倉委員】

今日の資料に記載されている地域活動支援事業という狭い範囲にとらわれずとい

うことだと思う。

そして若い方とお話をさせていただいて、今、何が問題なのかということを出す。まず、そこを取っかかりにするということが一番かなと思う。若い方のどこをターゲットにするかということもあるが、何人ぐらい、どんな団体にするか、一つ決まれば具体的に動けると思う。とりあえず、話し合いをしてみてもどうか。

【富田座長】

まず一步踏み出してみないと見えてこないと思う。

【高野副会長】

やはり実際に活動している人を応援していくことがいいと思う。

ただそのビジョンがあって、そういうのはどうかというよりも、実際やっている人、その人達を応援して、それを大きく広げて、芽を伸ばしてあげるとというのが一番いいと思っている。実際に活動している人達をまず呼んで、やっていくことがいいと思う。

【本城会長】

民間との関わり、行政との関わりがあるので、我々がどこまでの範囲でできるのかということがあると思う。この前直江津でうみまちアートという形で、行政が主導して、6千万円をかけてあれだけのことをやった。

では、高田は何もない。市は6千万円の補助金を出して、直江津の街なかのにぎわいをつくるために、2か月間かけて実施し、直江津の活性化、元気づくり、まちおこしを行った。

まだ、その総括は出ていないが、それぐらいの形で発展させるようなものがないと、我々はそのバックアップをするかどうかは別にして、行政とも関わりを持っていないといけないと思う。

例えば、趣味のサークル関係のグループとか、或いは私達の地域でやっているイベント的なものの集まりとか、そういうところに来る若者。雁木の景観づくりのために高校生が参加して、一緒に協力をしてもらって研究する。そういう雁木の景観づくりをやっている。そういうような若者、高校生みたいなこれからの高田を背負っていく人達、こういう人達の意見を聞くことも大事だと思っている。

そういう人といろいろなイベントを行ったが、そういうところに参加している若

者の意見を入れると結構いろいろなことができる。だから、若い人と話し合うきっかけとしては、民間団体との関係、それから行政との関わりを含めて、ある程度そのターゲット、テーマを絞り、高田のまちづくりを発信できるようなグループ集団等との話し合い、意見交換が一番いいのではないか。

【富田座長】

行政との関わりについて、ちょっと見えてこない。第2分科会の方は、災害とかの件で行政から話を聞くということはいろいろあると思う。

【本城会長】

行政との関りについては、例えばこの福祉交流プラザ、南三世代交流プラザ、雁木通りプラザなど、市の施設を利用した団体で、若い人達が参加しているいろいろなグループがある。そのようなところを我々がある程度、施設の利用状況などから探っていくと意外なヒントが出てくるのではないか。そこに来ている皆さんからも意見をもらうような、そういう意味で言っている。各施設を利用しているいろいろな種類の団体の意見も聞きながらやっていくと、何かその糸口ができるのではないか。

それから、小学生や中学生の場合、ちょっと年齢が低くなるので、高校生あたりの意見を聞いていくことも大事かと思う。

【富田座長】

例えば、高校生で地域の活動をやっている人と意見交換する。

【小嶋委員】

ただ、高田といっても若い人が減ってきている。だから、若者だけといっても活性化にならないのではないか。いずれにしても事業を行っている若者に声をかけて、実際どんなことをしているか現場に入ってみないとわからないこともある。

また、他市の若者が関わっている事例を研究することも良いと思う。

【小川委員】

全国にいろいろな若者を巻き込んだ活動があるが、それぞれ事情が違う。だから同じような真似をしてもいけない。

高田地区の一つのニーズというか、高田区としての要望というか、課題があるのかどうか、まず、話を進めて行くところから、若い人と一緒に活動を進めていけれ

ば面白いと思う。

【浦壁委員】

いろいろな話を聞いていても、なかなか範囲も広いし、対象もいろいろな年代をターゲットにするとか、若い人といっても独身なのか、20代か、30代か、そうなるとうごく集めるのも非常に難しいと思う。

私は活性化に一番いいと思うのは、子どもたちを中心にしたもの。そうすると若いママさんや家族単位で出てくる。そして家族単位にすると町内も動く。PTAも動く。そのように子どもを動かした方が活性化には早いと思う。

そこで、そろそろ具体的にするのにあたっては何がいいかと思って、いつも考えていることは、青田川についてである。青田川は、町内でいえば南本町から本町、西城、そして学校の校区でいえば南本町小、大手町小、大町小と広い。そして青田川は、過去に比べれば本当にきれいに整備されている。それで本城会長の方では、野点とかやられたりしている。あれを、もうちょっと広げて、川の通っている学校区、学校、PTAが動くともう本当にきれいになると思う。

だから具体的に、対象を若い人といっても、とらえどころのないことをいつまでも議論しても始まらないと思う。もう絞り込まなくてはいけない。

この青田川を中心にした取組は、子どもが動くとう学校が動く、PTAが動く、町内が動くことになるので、それこそが有効活用につながると思う。川が綺麗になるし、そこでみんながいろいろなシーズンごとに川遊びをしたり、花を植えたりとか、掃除したりとか、春から秋まで関われる活動になると思う。このようなことをターゲットにして、絞った方が確実だと思う。

【富田座長】

第2回目の分科会の時に「青田川の夕べ」の拡大について話をしたところである。

【浦壁委員】

私が言ったのは、子どもを取り込む、学校を取り込む、PTAを取り込む、町内を取り込む、そんな発想は今まで誰もしてこなかった。そこまで全部関わった話し合いについてはこれまで出てきていなかった。

【本城会長】

青田川は、高田の南本町、大手町、大町、東本町小学校区に流れている。浦壁委員が言われるように学校、PTA、町内が固まるといろいろなことができると思う。そしてそこで人間関係ができてくる。

だから一つの町内で何かやるのではなくて、固まった学校区くらいの規模で、そういう町内会との繋がりができる。私のところでは今、お茶会をやったり、灯籠流しをやったりというようなことを手掛けている。あるいは雁木まつりをやったりとか。何か今、大町の方でもやっているが、そのようなことを繋いでいくというか、高田区といってもやはり小学校区だと思う。小学校区単位の方が動きが早いと思う。

【富田座長】

地域協議会が何をするのか、主体的に動くことについて、有志、例えばその各町内会、そんな有志が集まって、そこが主体的に動くのが本来である。そこに地域協議会がどう関わることがなかなか見えてこなかった。

この青田川をテーマとすることは、大変良いと思った。一大イベントになって、いろいろな人が来るのではないかとも思ったが、地域協議会の役割、それをどこに提案したらいいかということを見ると地域協議会から提案することはできないのではないかと思った。これは、有志が集まって関係団体とともに物事が成立すると思った。

【高野副会長】

地域協議会では、学校とかそういうところに声掛けをして、「こういうのはどうですか」というレベルの話ですか。

【富田座長】

これは、有志、コアになる人が何人かいないといけない。

【高野副会長】

結局、地域協議会から町内会とか学校の方に話を出して、「こういうのはいかがでしょうか」というようお願いレベルのことしかできない。

本城会長の方では、他の学校区の方に「一緒にやりませんか」というような働きかけをしたことはあったか。

【本城会長】

今まではない。

【高野副会長】

これはあくまでも地域の盛り上がりか。

【本城会長】

それはそうである。

だから、実際に動いてる人達をターゲットにして、そこから手を借りることから始めないとなかなかできないと思う。

今やれることは、浦壁委員が発言したように、その中にある学校を一つの地域母体にして、そこにはいろいろな活動があるわけだから、そういうところに呼びかけてみる。あまり大風呂敷を広げるとできないので、モデル的に今年は何か1つやってみようということだと思う。

今年ターゲットを絞って、例えばどこか1つの学校区をターゲットにして、東本町であれば、「マルシェ」で活動している人、若手の人達に呼びかけるようなことから始めていくしかないと思う。

それぞれの団体は自主自立してやっている。私らに言われなくてもやっているの、我々がそこに介入すると余計なお世話ということになる。だから、地域の活性化をどうするかという点で言えば、一つのモデル地区を作ってやっていくことになる。

雁木のことにしても大町や南本町のモデル的に取り組んでいるところは、どう広げていくのかということになる。そのために実際に活動している人の意見も聞いて、そこに若い人からも入ってもらおう。或いは、学校のPTAのような人達も含めて意見を聞き、若い人の意見を取り込むようなことしかできないのではないかな。

【高野副会長】

学校はコロナのことがあって授業日数が足りなくて、学校の方をお願いに行っても「ああそうですか」というくらいで、「時間がありませんからできません」と断られてしまう。

【松倉委員】

そのとおり。学校へ持ち込んでもなかなか難しい。

【富田座長】

いろいろ意見が出たが、まず、現場に行って聞いてみることに。皆さんの地元で活動している団体があると思う。そういうところから具体的な話を聞いて、進めていく。聞き方としては地域協議会として地域を活性化したい、どういうことを支援してほしいか、どんな問題や障害があるか、ということをごくばらんに聞かせてもらおう。その中で、我々が協力できることは協力しましょうという形でやってみて、1回やってみれば、何か見えてくるかもしれない。そういう流れでどうか。

【高野副会長】

新しくお願いするのではなくて、今やっている人達の声聞くことが一番だと思う。

【小川委員】

警女ミュージアムに上越教育大学の学生がフィールドワークをしたいということで4人来た。結果的に警女ミュージアムで長くやる仕事がありませんから駄目になったが、そういう大学生みたいな若い人達が、このまちの良さをあたっていくと、町内にも聞きに行ったり、いろいろな形で関係ができることになる。

そして自分たちで、高田区の良さを発信するような一つの組織を作っていく。それが今度、学年が代わればまた次の学年に受け継いでもらう。そういう中で、この地域との関わりをだんだん深めていってもらおう。そうすると、「若い人はこんなところがいいと思っている」とか、また地域に還元される。

あくまでも若い人を人数合わせで使うということではなく、若い人は若い人で勉強にもなっていくし、地域との関わりも持っていけるし、そんな一つの活動組織ができあがっていけばいいと思う。

【富田座長】

最終的には、そういうようなところになればいい。

他市によっては、まちを活性化したいということで、若者会議とか設けて若者が月1回集まっていろいろ議論しているところもある。

【小川委員】

今の若者はSNSとかが得意だから、それを使って発信する。だからそこにうまく、私達も力を貸しながら進めていけたらいいと思った。

【富田座長】

今日のまとめとしては、地域の活性化ということで、若者を中心に意見交換をして、どういうことを考えているか、どんな問題があるか、どのように進めていったらいいかを聞いて、またそれをどうするかということで進めていくことにしたい。

【本城会長】

また富田座長と小川副座長で整理してほしい。

【富田座長】

了解した。

閉会を宣言。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 0 2 5-5 2 2-8 8 3 1 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。